

※このGoogleドキュメントには絶対に書き込まないでください※

※書き込みたい場合は「ファイル⇨コピーを作成」で別ファイルを作ってください※

Webライターラボ 添削会

構成の作り方

※構成の基本的な作り方については、Webライターラボの以下コンテンツをご参照ください。(パスワードはDiscordの #パスワード を参照)

◆構成作成の実演講座

- ①<https://webwriter-lab.net/kousei/>
- ②<https://webwriter-lab.net/231006-teian-tensaku/>

◆構成を添削している添削会動画

- ①<https://webwriter-lab.net/221119tensaku/>
- ②<https://webwriter-lab.net/221216tensaku/>
- ③<https://webwriter-lab.net/220910tensaku/>
- ④<https://webwriter-lab.net/230617tensaku/>

◆WritingBegin (SEOについて)

<https://nakamura-editing.co.jp/writer/writingbegin/>

応募内容(応募者より)

■KW「借金 債務整理 ブラックリスト」

■ペルソナ

ギャンブルで800万円の借金を抱えていた昔の自分

■記事の目的・用途

案件応募用のポートフォリオとして自分のブログに載せる記事

■記事のゴール・訴求先(ペルソナに成約させたい商品やサービス)

弁護士に債務整理の相談をしてもらう

■想定文字数

4000文字

気になるポイント(応募者より)

記事内で気になっているポイント

1. リード文の長さ
2. クライアントワーク向けの記事になっているか
3. 実体験を入れすぎていないか

①リード文の長さ

リード文が長くなりがちなのが悩みです。

この記事のリード文は約480字あります。

クライアントからは300字程度にまとめるよう指示されることが多いのですが、リード文で読者を掴まないと先がなく、読者の感情に訴えるために下記の内容を入れようとするとどうしても文字数が増えてしまいます。

- ・想定読者が抱える問題
- ・問題の解決策
- ・解決策の根拠
- ・記事を読むベネフィット

このジレンマを解消するコツなどありましたらご教示いただきたいです。

②クライアントワーク向けの記事になっているか

8月の添削会で、自分のブログ記事でも案件応募用ならクライアントワークに寄せた書き方をすべきとまちゃさんがおっしゃっていた点を意識して執筆しました。

- 口語体で書かない
- 吹き出しの使用を控えめにする(他のブログ記事では結構多用しています)

上記2点を特に注意して執筆したのでチェックしていただきたいです。

③実体験を入れすぎていないか

最近「経験のある方に執筆をお願いしました」として不採用になるケースが続き、実体験を多く入れられる内容を選んで執筆しました。

しかし、記名記事でない案件で個人の体験を入れられないよう指示された経験もあります。

案件応募用の記事には実体験を入れてもよいのか。入れてよいならどの程度入れるのがよいのか。まちゃさんのご意見をお聞かせいただきたいです。

④その他

コメントでお尋ねしている点についてもアドバイスをいただけたら幸いです。

よろしくお願いいたします！

追記: ブログに公開している記事は[こちら](#)からご確認いただけます。

総評 & チェックポイント

●ご自身の体験を活かせるテーマを選んでいるのが良いです！

ただ、書き方が個人寄りになっている部分があります。

→エビデンスはあるか？個人の感想ではないか？客観的な事実かどうか？など

●少しくだけた表現がところどころにあるので、

さらにクライアントワーク寄りの書き方を意識してみてください！

●気持ちが入っているからか、冗長になる傾向があるように思います。

実体験にもとづいて詳しく書くことと、気持ちを盛り込むことは別だと考えましょう。

構成

[債務整理でブラックリストに載っても借金は早く0にすべき4つの理由をわかりやすく解説](#)

[ブラックリストとは？](#)

[債務整理をしてでも借金は早く返すべき4つの理由](#)

- [1. 一定期間経つと事故情報は消えるから](#)
- [2. ブラックリスト入りは他人にはわからないから](#)
- [3. さほど生活に困らないから](#)
- [4. より早く人生をやり直せるから](#)

[債務整理は弁護士への依頼がおすすめ](#)

[まとめ | 借金は1日も早く返済して資産形成の時間を増やそう！](#)

▼▼▼ 本文 ▼▼▼

債務整理でブラックリストに載ってでも借金は早く0にすべき4つの理由をわかりやすく解説

▼▼▼コメント▼▼▼

「毎月きちんと返済しているのに全然借金が減らない」
「毎月の返済額を抑えて家計を楽にしたい」
「お金を返すために働く生活を1日も早く抜け出したい」

借金を抱えた人によくある悩みではないでしょうか。ギャンブルで800万円もの借金を抱えていたときの私がまさにそうでした。

- 欲しいものがあったても我慢の日々
- 飲み会はすべて断り「人付き合いの悪い奴」と陰口を叩かれる
- 給料が入ったらまず支払い。手元にあるお金はいつもわずか

つらい生活を12年続けて何とか普通の生活を手に入れましたが、完済後に債務整理をしていればもっと早く返済できていたかもと知り、失った時間の大きさに後悔しています。

「債務整理をするとブラックリストに名前が載る」

こう言われ世間体を気にして私は債務整理をしなかったのですが、実はこれが大間違いだったのです。

というわけでこの記事では、借金を早く0にできるなら債務整理も検討すべき理由をFPである私が体験を交えながらわかりやすく紹介します。

借金返済に奮闘中のあなた。私のように遠回りせず、1日も早く借金を無くして楽しく豊かな人生を歩むためにぜひ最後までご覧ください。

ブラックリストとは？

「支払いを滞納するとブラックリストに載る」と言われますが、実際にブラックリストというリストが存在するわけではありません。

「ブラックリストに載る」とは、正しくは「信用情報機関に事故情報が登録された状態」をいいます。

ブラックリストに載る主な理由を以下にまとめましたのでまずご覧ください。

事故情報として登録される理由	詳細と具体例
長期間の延滞	約2か月以上にわたる延滞 ・クレジットカード代金の未払い ・携帯電話代金の未払い

債務整理	債務整理手続きを行った場合 ・任意整理 ・個人再生 ・自己破産
代位弁済	契約者が返済不能になり、連帯保証人などが契約者に代わって支払いをする状態になった場合
契約解除	クレジットカードの強制解約など、契約不履行などで金融機関から強制的に契約解除された場合
多重申し込み	短期間に複数のクレジットカードやローンに申し込んだ場合

(吹き出し)

基本的に予定通りに返済できなくなると事故情報として登録されると思ってください。

債務整理をしてでも借金は早く返すべき4つの理由

▼▼▼コメント▼▼▼

結論から言うと、借金は債務整理をしてでも早く0にすべきです。たとえブラックリストに載ってしまってもです。

理由は以下の4つです。

1. 一定期間経過後、事故情報は消えるから
2. ブラックリスト入りは他人にはわからないから
3. ブラックリストに載ってもさほど生活に困らないから
4. より早く人生をやり直せるから

ひとつずつ、詳しく紹介していきます。

1. 一定期間経つと事故情報は消えるから

登録される理由にもよりますが、事故情報はおよそ5~7年で消えます。

時間が過ぎれば無条件で信用が回復するのは実はすごいことです。

例えば、過去に借金を返さなかった相手に再びお金を貸してくれと頼んでお金を借りられるでしょうか。

たとえ10年、20年経っていたとしても借りられないでしょう。人間相手に一度失った信用はまず回復しません。

一方、ブラックリストの場合は情報が消えると同時に信用が回復します。一定期間経過後に必ず信用が回復するなら、借金返済の苦痛と引きかえに一時的に信用を失う選択はあります。

ブラックリストに載っている間に自分のマネーリテラシーを高めておき、信用が回復したら稼ぐため、資産を増やすために正しくクレジットカードなどを使えば何の問題もありません。

▼▼▼コメント▼▼▼

(吹き出し)

5年は長いと思うかもしれませんが、意外とあっさり過ぎ去ってしまう時間ですよ。

2. ブラックリスト入りは他人にはわからないから

ブラックリストに載っても、自分から言わなければ他人にはわかりません。個人情報として保護されるからです。

世間体を気にして債務整理をしないと大切な時間を失う可能性があります。

私とその典型例でした。友人や職場の人にお金にだらしない人とバレルのを過剰に恐れ、借金返済に無駄な時間を使ってしまったのです。

(吹き出し)

「時は金なり」という言葉の重さを実感したできごとでしたね。

言葉は悪いですが他人はあなたが思うほどあなたに関心を持っていません。あなたから言わなければ大丈夫なのですから、ブラックリスト入りを恐れる必要はありません。

3. さほど生活に困らないから

ブラックリストに載ると、いろいろと制限が課されて生活が不便になると思っていますか？

結論を言うと、不便を感じる局面はありますが生活に困るほどのものではありません。むしろ制約がある期間は「人生を立て直すための勉強期間」としてちょうど良いくらいです。

まず、ブラックリスト入りするとできなくなること、ブラックリスト入りしてもできることを簡単にまとめましたのでご覧ください。

<ブラックリスト入りするとできなくなることの例>

- 新たな借り入れ
- クレジットカードの利用
- ETCカードの利用
- 携帯電話の分割購入
- 保証人になること

<ブラックリスト入りしてもできることの例>

- 家族カードの利用
- デビットカードの利用
- ETCパーソナルカードの利用

- 携帯電話の一括購入
- 保険契約
- 就職、転職、投票など

どうでしょう？できなくなること、結構ありますよね。でも大丈夫、ものは考えようです。

借金を0にしたいなら新たな借り入れはもちろん、クレジットカードやローンの利用も控えるべきなのはわかりいただけるでしょう。

しかし、人間は意思の弱い生き物です。ピンチのときに使えるとつい使ってしまいます。

ゆえに甘えが許されないブラックリスト入りという状態は、不便ですが借金を返すためには好都合です。

そして、改めて両者を見比べてください。

ブラックリスト入りするとできなくなること	ブラックリスト入りしてもできること
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな借り入れ ・クレジットカードの利用 ・ETCカードの利用 ・携帯電話の分割購入 ・保証人になること 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族カードの利用 ・デビットカードの利用 ・ETCパーソナルカードの利用 ・携帯電話の一括購入 ・保険契約 ・就職、転職、投票など

”ある条件”を満たせばできなくなることによる不便を解消できると思いませんか。

ある条件とは「前もってお金を用意する」です。

例えば、デビットカードはクレジットカードとほぼ同じ使い方で支払いができます。

▼▼▼ 添削 ▼▼▼

新たな借り入れや保証人になることはできませんが、その他のものは代替手段を使える場合があります。

例えば、デビットカードはクレジットカードとほぼ同じ使い方で支払いができます。

—— 添削 終わり ——

両者の違いはクレジットカードが後払いなのに対して、デビットカードは前もって用意したお金で支払っている点です。

要は借金さえしなければ便利な機能は変わらず使えるわけです。

▲ ▲ ▲ コメント ▲ ▲ ▲

(吹き出し)

PayPayなどのチャージもクレカではなくATMを使ったチャージはブラックリスト入りしていてもできますよ。

前もってお金を用意する方法は[こちら](#)で紹介しています。

借金を完済したら、二度とお金は借りるまいと貯金を意識するでしょう。貯金の基本となるこの方法は必ずあなたの役に立ちます。ぜひあわせてご覧ください。

[「先取り貯金」とは？貯金だけにとどまらない3つのメリットを徹底解説](#)

4. より早く人生をやり直せるから

債務整理をするとより早く人生の再スタートを切れる可能性が高まります。

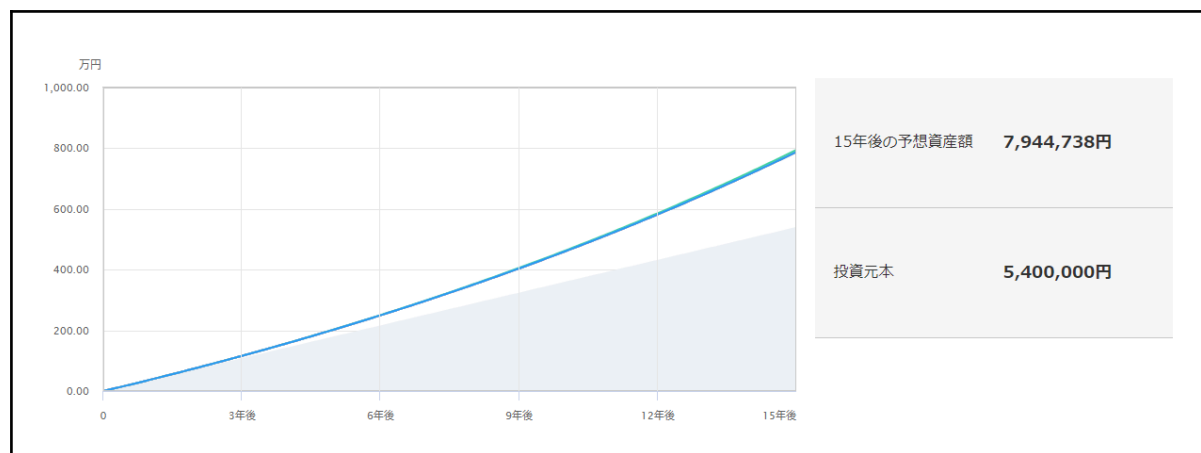
自己破産なら借金は0に、任意整理や個人再生なら5～7年で返済計画が立てられるからです。

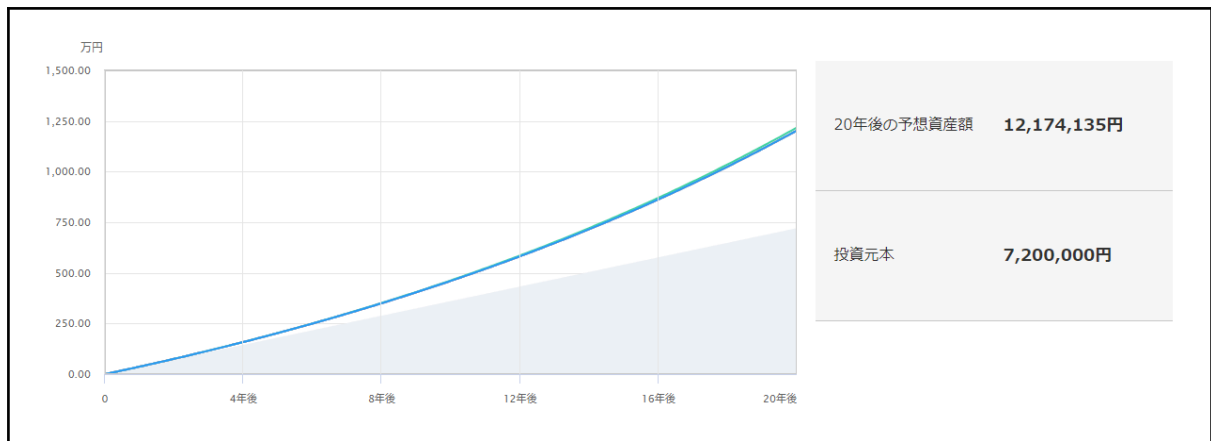
借金を早く無くせば、資産形成に使える時間が増えます。確実に資産を増やすには時間が必要なので、再スタートは1日も早く切れるに越したことはありません。

私の場合、12年かけて借金を完済したので、債務整理をしていたら少なくとも5年は早く人生をやり直せていた計算になります。

投資の王道であるインデックス投資を5年早く始めていたら、資産は桁違いに増えていたかもしれないと思うと後悔しかありません。

例えば、代表的なインデックスファンドであるeMAXIS Slim全世界株式(オールカントリー)に毎月3万円ずつ積み立て、年利5%のリターンがあった場合の運用成績は以下のグラフのようになります。





上:15年 下:20年運用した場合の試算

三菱UFJアセットマネジメント「[つみたて投資シミュレーション](#)」より

運用期間が5年間違うだけで資産額が400万円以上変わっています。

資産運用は期間が長いほど資産を増やせる可能性は高くなります。スタートが早いに越したことはありません。

人生の再スタートを早く切れるなら、債務整理は積極的に検討するべきです。

債務整理は弁護士への依頼がおすすめ

ひとことで債務整理といっても、方法は3種類あります。

- 任意整理
- 個人再生
- 自己破産

それぞれメリット・デメリットがあり、どれが自分に適しているのか判断が難しい場合もあります。

そこでおすすめなのが弁護士への相談です。

例として、私が弁護士法人「[アディーレ法律事務所](#)」に過払い金請求を依頼し、約250万円を取り戻した話を紹介します。

過払い金請求とは任意整理のひとつで、消費者金融などに払い過ぎた利息を返してもらう手続きです。

過払い金請求をアディーレに頼んで良かった点は以下の3つです。

- 費用の支払いが必要なのは成功報酬が発生した場合のみなので払い損の心配がない
- 費用は取り戻した過払い金から支払えるのであらかじめお金を用意する必要がない
- 弁護士なので裁判に発展してもそのまま任せられる

弁護士と聞くと高額な費用をイメージしませんか。実際、相談だけで1時間数千円というケースもあるので、弁護士に相談と聞いた時点でためらう人も多いでしょう。

でも、アディーレなら大丈夫です。過払い金請求の場合、費用は実際に過払い金を取り戻した場合のみ必要、かつ取り戻したお金の中から支払えるので、借金返済に苦労している最中に費用を用意する必要がありません。

▲▲▲コメント▲▲▲

また、弁護士なので裁判になっても安心です。

消費者金融の中には、数十万円の過払い金請求に対して、わずか数万円での和解を提案してくるところが実際にありました。

(吹き出し)

ナメてんのかと思いますよね。でも事実なんですよ。

▲△△コメント△△▲

弁護士ならこのような事態に対して裁判となってもスムーズに動いてくれます。私も裁判に勝ち、自分の手元により多くの現金が戻ってきました。

過払い金請求は司法書士法人にも頼めますが、裁判で戦えるのは弁護士だけです。裁判に発展した経験から、過払い金請求を含めた債務整理は弁護士に頼むことを私はおすすめします。

なお、過払い金請求には時効があります。時効を迎えると払わなくてよかったお金を取り戻せなくなる場合があります。相談費用はタダなので、払い過ぎの心当たりがあるならとりあえず相談してみてもいいかもしれません。

[債務整理の強い味方！アディーレ法律事務所の詳細はこちら](#)

まとめ | 借金は1日も早く返済して資産形成の時間を増やそう！

借金は1日でも早く返して人生の再スタートを切りましょう。

ブラックリスト？恐れる必要はありません。借金を早く返せるなら債務整理によるブラックリスト入りは有益で前向きな行動です。あなたは私と同じ失敗をしないでください。

ブラックリストに入っている期間は自分のマネーリテラシーが高まる以下の勉強に充てるのがおすすめです。

- お金の貯め方
- お金の増やし方
- お金の使い方

お金の勉強をし、貯金や資産運用を実践し、経験を積むのに5年はちょうどよい期間です。

借金を完済し資産形成のロケットスタートを切って、金銭的にゆとりある充実した生活を手に入れてください！

気になるポイント(応募者より)

記事内で気になっているポイント

4. リード文の長さ
5. クライアントワーク向けの記事になっているか
6. 実体験を入れすぎているか

①リード文の長さ

リード文が長くなりがちなのが悩みです。

この記事のリード文は約480字あります。

クライアントからは300字程度にまとめるよう指示されることが多いのですが、リード文で読者を掴まないと先がなく、読者の感情に訴えるために下記の内容を入れようとするとどうしても文字数が増えてしまいます。

- ・想定読者が抱える問題
- ・問題の解決策
- ・解決策の根拠
- ・記事を読むベネフィット

このジレンマを解消するコツなどありましたらご教示いただきたいです。

②クライアントワーク向けの記事になっているか

8月の添削会で、自分のブログ記事でも案件応募用ならクライアントワークに寄せた書き方をすべきとまちゃさんがおっしゃっていた点を意識して執筆しました。

- 口語体で書かない
- 吹き出しの使用を控えめにする(他のブログ記事では結構多用しています)

上記2点を特に注意して執筆したのでチェックしていただきたいです。

③実体験を入れすぎているか

最近「経験のある方に執筆をお願いしました」として不採用になるケースが続き、実体験を多く入れられる内容を選んで執筆しました。

しかし、記名記事でない案件で個人の体験を入れないよう指示された経験もあります。

案件応募用の記事には実体験を入れてもよいのか。入れてよいならどの程度入れるのがよいのか。まちゃさんのご意見をお聞かせいただきたいです。

④その他

コメントでお尋ねしている点についてもアドバイスをいただけたら幸いです。

よろしくお願いいたします！

追記: ブログに公開している記事は[こちら](#)からご確認いただけます。

総評 & チェックポイント

- ご自身の体験を活かせるテーマを選んでいるのが良いです！
ただ、書き方が個人寄りになっている部分があります。
→エビデンスはあるか？個人の感想ではないか？客観的な事実かどうか？など
- 少しくだけた表現がところどころにあるので、
さらにクライアントワーク寄りの書き方を意識してみてください！
- 気持ちが入っているからか、冗長になる傾向があるように思います。
実体験にもとづいて詳しく書くことと、気持ちを盛り込むことは別だと考えましょう。